

## 平成25年度 宇都宮市食育推進会議 会議録

■ 日 時 平成26年2月24日（月）午後1時30分から午後2時30分まで

■ 場 所 宇都宮市役所14階 大会議室

### ■ 出席者

#### 1 委 員（17名）

斉藤さちこ委員，櫻井啓一委員，大森玲子委員，金田晋平委員，福田哲夫委員，  
長谷川英一委員，小高渉委員，岩本眞砂枝委員，福田順一委員，金田淳委員，  
金枝右子委員，堀内英夫委員，渡辺政行委員，鶴見充衛委員，手塚敏子委員，  
荒川昭子委員，青木浩子委員（委員名簿順）

※ 欠席委員（3名）：杉浦朋子委員，細谷タミ子委員，亀井實委員

#### 2 事務局（10名）

保健福祉部長，保健福祉部次長（保健衛生担当），健康増進課長，健康増進課長補佐，  
健康増進課健康づくりグループ係長，学校健康課食育グループ係長，  
健康増進課職員3名，学校健康課職員1名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 なし

### ■ 会議経過

#### 1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，了承
- ・ 所定の手続きにて事前に周知したが，傍聴希望者はなし

#### 2 あいさつ（保健福祉部長）

#### 3 委員紹介

#### 4 会長・副会長の選出

- ・ 宇都宮市食育推進会議規則に基づき，委員の互選により，会長には第2号委員・大森玲子委員，副会長には第1号委員・斉藤さちこ委員を選出
- ・ 会長・副会長よりあいさつ

## 5 議 事

- (1) 「第2次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について
- (2) 平成26年度「食育に関する意識調査」の実施について

## 6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

- (1) 「第2次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について

### <朝ごはんを食べる人の割合について>

#### ● 委 員

- ・ (資料1 2ページ) 基本目標1『毎日きちんと朝ごはんを食べます』における実践目標「朝ごはんを毎日食べる人の割合」の幼児・小学生における現状値が低く感じるが、食べない理由は把握しているのか。

#### ○ 事務局

- ・ 平成23年度に宇都宮市が実施した「食育に関する意識調査」の結果によると、朝ごはんを食べない理由として多いものは、「食欲がわからない」が最も多かった。

#### ● 委 員

- ・ 幼児・小学生が朝ごはんを食べない理由の1つである「食欲がわからない」については、就寝時間が遅いことなどが考えられると思うが、そこに問題はないのか。

#### ○ 事務局

- ・ 「食育に関する意識調査」の結果によると、就寝時間として最も多い時間帯は午後9時台、起床時間として最も多い時間帯は午前6時台であるが、就寝時間や起床時間と朝ごはんを食べているかどうかのクロス集計など細かい分析には現在に至っていないところである。

#### ● 委 員

- ・ 朝食については、その内容も重要になってくると考える。食べているといっても、ケーキが朝ごはんである人と和食中心の朝ごはんである人とでは、問題が異なってくるのではないか。

#### ○ 事務局

- ・ 朝食の内容については、「食育に関する意識調査」において、どのようなものを食べているか把握している。
- ・ 「主食」の回答には、ごはん、パン、麺、シリアルなどを含み、和食かどうかなどまでは把握していない。
- ・ 回答の選択肢の中に、「魚・肉・大豆製品を使ったおかず」や「牛乳・乳製品」なども設けているが、「主食」と比較すると回答の割合が少ないので、今後はその内容についての分析を深め、バランスの良い食事を摂るよう啓発に努めていく。

### <食育出前講座における高校生からの申込みについて>

#### ● 委員

- ・ 食育出前講座については、高校生からの申込みが少ないとあるが、高校生に対して講座の案内をしているだけなのか、それとも授業のカリキュラムに組み込むような呼びかけをしているのか、教えてほしい。

#### ○ 事務局

- ・ 高校生を対象とした食育出前講座については、市内の高等学校長会において講座の案内をしているが、授業のカリキュラムに組み込むようお願いまでには至っていない。

### <重点事業「学校における地域や企業と連携した食育の推進」の評価について>

#### ● 委員

- ・ (資料1-1)7ページ)重点事業であって、評価がC(実績が年次目標に対して7割未満の値となっているもの)のものについては、何か取組を行ったうえでその評価となっているのか。

#### ○ 事務局

- ・ 事業No.45「学校における地域や企業と連携した食育の推進」については、活動指標を実施している市立の学校数としており、目標を市内の市立小中学校すべて(93校)での実施にしている。
- ・ 平成24年度が事業の開始年度に当たり、小中学校全体の3分の2程度(61校)での実施となっているが、事業の現状として、地域とのつながりが強い農業が盛んな地域等においては、地元の生産農家等との交流給食や地元企業の出前講座に取り組んでいるところがあるが、市の中心部や生徒・児童数の少ない学校においては計画段階で留まっているところがある。
- ・ 現在は、学校の会合等において各学校に取組の推進を促しており、今年度(平成25年度)においても実施校数が増えていることから、引き続き、取り組んでいきたいと考えている。

#### ● 委員

- ・ (資料1-1)5ページ)事業No.28「体験農園活動等の実施」について、自分で体験をして、作ることというのは、特に小中学校において食育を推進するうえで、とても重要なことと考える。
- ・ 現在、年次目標に対して、実績が低いように見えるが、その点について理由を教えてください。

#### ○ 事務局

- ・ 体験農園活動の内容としては、収穫体験や農業体験を含む学校農園の実施や生産者との交流給食の実施などがあり、学校農園の実施については、現在、市内のほとんどの学校で行われている。

- ・ しかし、活動指標として設定している生産者との交流給食の実施については、事業No.45「学校における地域や企業と連携した食育の推進」と同様に、市の中心部や生徒・児童数の少ない学校では取組が計画段階のところもあるので、今後、より一層促進に努めていきたい。
  - ・ 一方で、児童・生徒の農業体験という点については、かなり進んでいる。特に学校農園の実施については、収穫物を給食に取り入れる取組を行っている学校もあるので、今後もそのような取組を推進していきたい。
- 委員
- ・ 学校関係における、地産地消の推進に当たっては、周辺の環境によって左右される部分もあるかと思うが、今後も生産者との交流などの推進を図ってほしい。

## (2) 平成26年度「食育に関する意識調査」の実施について

### <「外食・中食の利用状況」を把握する設問について>

- 委員
- ・ (資料2-3)1ページ) 新規の設問について、外食・中食の利用状況に係る設問の付問として、メニューを選ぶ際に栄養バランスやメタボリックシンドローム予防の観点から選んでいるかという点について、個人の意識を把握したらどうか。
- 事務局
- ・ いただいた意見を基に、事務局にて反映する。

### <調査対象・成人(18歳以上)における調査の回収率について>

- 委員
- ・ (資料2)1ページ) 前回調査において、成人(18歳以上)の回収率は39.3%とあり、次回の調査の見込みも同値となっているが、回収率を向上させるため、回収方法や調査対象の抽出方法を変えるなど、何か方法を検討しているか。
- 事務局
- ・ 回収率については、調査の設問数を減らしたことにより、多少改善されることを見込んでいる。また、礼状兼督促状の発送により、回収率の向上を図る。
  - ・ 調査対象の抽出方法については、前回調査と比較するため、同様の抽出方法(性・年齢、居住地区等を考慮した無作為抽出)で考えている。
- 委員
- ・ 調査票に、「市民の健康に関する重要なアンケートです」といった趣旨の説明を入れるなど、調査の重要性を伝えることにより、アンケートを回答する意識も高まると思う。
- 委員
- ・ 調査票など文書に堅い印象があるので、忍者食丸くんやミヤリーといったゆるキャラ<sup>®</sup>などを用いるといったユニークな取組も回収率の向上に有効ではないか。

○ 事務局

- ・ いただいた意見を基に，事務局にて反映する。

7 その他

- ・ 次回の会議の開催は，平成26年度「食育に関する意識調査」の実施後を予定しており，日程が決まり次第，通知を送付する。
- ・ いただいた意見を事務局にて整理し，大森会長に確認のうえ，今後の進行管理や意識調査に反映する。

8 閉 会